

かながわ畜産まめ知識

かながわの養鶏

参考「家畜飼育の基礎」／(社)農山漁村文化協会
「たまご博物館」／芳賀書店
「畜産経営の分析結果と考察」
／(社)神奈川県畜産会

神奈川県の養鶏

農林水産省畜産統計によると、平成21年2月1日現在における県内の採卵鶏の成鶏1,000羽以上の飼養状況は、飼養戸数70戸で116.4万羽です。(肉用鶏生産は、小規模経営が1戸のみ)

経営者の高齢化や環境問題等で緩やかながら戸数、羽数とも減少する傾向にありますが、一方では経営の後継者も得られ、900万県民を有する大消費地という有利な立地条件を活かして、周囲の環境に配慮しつつ都市と共存する意欲的な取組みが各地域で行われています。

愛川町、相模原市などの県の北部中央地域には企業の経営による比較的大規模な養鶏場が集中していますが、中小規模の養鶏場は県内各地にあります。

鶏卵は牛乳や肉と違い、生産者が生産物をそのまま販売できる畜産物であり、普通の卵の直販以外にも、特別な飼料を与えるなど何らかの付加価値を付けた「特殊卵」をブランドたまごとして直販している経営も数多くみられ、地場流通も盛んです。

また、直販の形態の一つとして、鶏卵の自動販売機を持つところもあります。お気に入りの養鶏場で、冷蔵された卵が24時間いつでも買えるため、利用者に好評です(写真)。

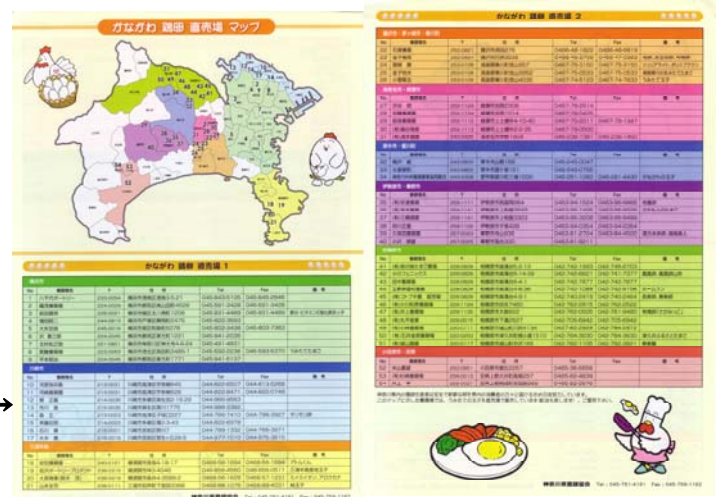


自動販売機による卵の直販

県内の養鶏場のブランドたまごについては、(社)神奈川県畜産会のホームページ「かながわ畜産ひろば」に直売所マップと各養鶏場のホームページへのリンクがあります。

ぜひお近くの直売所を探してみてください。

県養鶏協会作成の直売所マップ→



鶏(採卵鶏)のライフサイクル

雄と雌の鶏が交尾して産まれた有精卵は、鶏の体温に近い温度38℃、湿度65%で21日間温める(ふ卵)とヒヨコがかえります。ふ卵日数は、鳥の種類により異なります(ウズラ16~17日、七面鳥28日、ダチョウ40~44日)。鶏の有精卵をふ卵すると、2日目で心臓ができ始め、6日目には卵の中の全体に血管ができ、電灯で透かしてみると全体が赤くみえます。そして、10日目にヒヨコの形となり、13日目には体が羽毛でおおわれ、21日目にはヒヨコが自分のくちばしで内側から卵殻を破ってふ化します。なお、スーパー等で市販されている卵の大部分は無精卵で、温めてもヒヨコにはなりません。

ふ化後、採卵鶏では、幼びな期、中びな期、大びな期を経て成鶏期に入り150日位から卵を産み始めます。

鶏の寿命は10年を超えるといわれますが、産卵数は年を重ねるごとに減少していくので、経済的な採算を考慮して、通常は初産から14ヶ月くらい飼養して、新しい鶏に更新します。



生まれたて



成鶏



約1ヶ月



※肉用鶏(ブロイラー)は、採卵鶏と比べて大型で成長が早く、雄は60日位(体重3kg位)、雌は50日位(体重2kg位)で出荷されます。